令和8年度　学校（自己）評価計画書

石川県立松任高等学校

重点目標		具体的取組		主担当	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
1	デジタル技術の活用や地域・関係機関との連携により、主体的・対話的で深い学びの充実を図るとともに、キャリア教育を推進し、多様な進路に対応できる資質・能力の育成を目指す。	1	コミュニケーション力を向上させるために、探究活動等による取り組みを通して、他学年や、地域や外部の方と積極的に関わる機会を設ける。	教務課 進路指導課 探究 各学年	【成果指標】 総合的な探究の時間の活動において、他学年の生徒、または地域や外部の方と積極的にコミュニケーションを取っている。	「総合的な探究の時間における活動において、生徒のコミュニケーション力が向上した」と回答する教員の割合が A　80%以上である。 B　70%以上80%未満である。 C　60%以上70%未満である。 D　60%未満である。	Dの場合、教務課・学年で取り組みを再検討する。	7月と12月に教職員を対象に調査を行う。
		2	基礎学力の向上を図るため、ICT機器の活用や、自分の考えを書いたり、話したりする能動的な授業実践を通して、より一層生徒の学習意欲を喚起する。	教務課 各教科	【満足度指標】 ICT機器の活用や自分の考えを書いたり、話したりする授業によって学習意欲が高まっている。	「私はこの授業において理解を深めるためにクロームブック等を活用している」と回答する生徒の割合が A　80%以上である。 B　75%以上80%未満である。 C　70%以上75%未満である。 D　70%未満である。	Dの場合、各教科で指導法を見直す。	7月と12月に生徒を対象に調査を行う。
		3	探究活動と進路指導を連動させ、生徒が自己の関心を深める中で、将来の在り方・生き方を主体的に具体化できるよう支援する。	進路指導課 各学年	【満足度指標】 本校におけるキャリア教育によって、多様な進路に対応できる資質・能力を育成している。	自己の将来像を具体的に描くことができたと回答する生徒の割合と、本校における進路指導が生徒の将来の在り方・生き方の具体化に資するものであると回答する教員の割合が A　両方が80%以上である。 B　片方が80%以上、もう片方が70%以上80%未満である。 C　両方が70%以上80%未満である。 D　両方が70%未満である。	Dの場合、取り組みを再検討する。	探究活動や進路行事の際に、その都度生徒を対象に調査を行い、変容を明らかにする。 7月と12月に教員を対象に調査を行う。
2	地域振興及び地域防災に関する取組の充実を通して、ウェルビーイングの向上を図り、心身ともに健やかで人間力のある生徒の育成を目指す。	1	災害時にも対応できる安全な学校環境の構築を目指し、コミュニティスクールの機能を活かしながら、地域や関係機関とも連携し、防災教育の充実を図る。	総務課 各学年 各課	【満足度指標】 災害時において自分ができる役割について理解し、その内容を挙げることができる生徒を育成している。	「災害時において自分ができる役割について理解し、その内容を挙げることができる」生徒の割合が A　80%以上である。 B　70%以上80%未満である。 C　60%以上70%未満である。 D　60%未満である。	CまたはDの場合、取り組みを再検討する。	12月に生徒を対象に最終調査を行う。
		2	学校行事、部活動、各種委員会及び学年での地域交流や地域貢献活動への参加の機会を増やす。	総務課 各学年 各部	【成果指標】 学校行事・部活動・生徒会・各種委員会及び学年での地域(外部)との交流や活動、ボランティア活動に積極的に参加している。	学校行事・部活動・生徒会、各種委員会及び学年で地域（外部）の活動に参加した延べ回数が A　80回以上である。 B　70回以上80回未満である。 C　60回以上70回未満である。 D　60回未満である。	CまたはDの場合、取り組みを再検討する。	12月に生徒を対象に最終調査を行う。
3	挨拶や身だしなみの定着、規則正しい生活習慣の形成を通して、自ら考え行動する力を育み、安心・安全で心豊かな学校づくりを推進する。	1	保健委員会を中心に、生徒全体に対して生活習慣確立の大切さについて伝え、自己の健康管理能力を向上させる。	保健 相談 課	【成果指標】 生徒は基本的な生活習慣を大切にし、自己の健康管理への意識を高めている。	「基本的な生活習慣を整えようとしている」と回答する生徒の割合が A　80%以上である。 B　70%以上80%未満である。 C　60%以上70%未満である。 D　60%未満である。	Dの場合、取り組みを再検討する。	7月と12月に生徒を対象に調査を行う。

		2	登校時の挨拶運動や授業の開始と終了の挨拶、教職員による廊下での声掛け等を充実させ、挨拶を実行する機会を増やす。特に朝の登校時においては、挨拶を自分から自然にできる生徒を増やす。	生徒課 各学年	【成果指標】 生徒会、部活動、生活委員、PTAと協力し、年4回の挨拶運動を行い自分から挨拶する機会を増やす。	自らすすんで挨拶をしている生徒の割合が A　90%以上である。 B　80%以上90%未満である。 C　70%以上80%未満である。 D　70%未満である。	CまたはDの場合、指導法を再検討する。	7月と12月に生徒を対象に調査を行う。
		3	職員全員で登校指導時に遅刻防止を呼びかけるとともに、定期的に集会で啓発する。また、各生徒の遅刻の回数を把握し、常習者には保護者との連絡を取って遅刻防止に取り組む。	生徒課 各学年	【成果指標】 職員は組織的な指導を行い、生徒に時間を守る習慣を身に付けさせる。	年間の「遅刻回数が12回以上の生徒数」が、前年と比較して A　80%未満である。 B　80%以上100%未満である。 C　100%以上120%未満である。 D　120%以上である。	CまたはDの場合は、指導法を見直す。	中間集計及び年度末に最終集計を行う。
		4	学校いじめ防止基本方針に基づき、いじめの早期発見・未然防止に取り組んでいる。	生徒課 相談室 各学年	【成果指標】 生徒間で、いじめを許さない、見逃さないという意識を高める。	「いじめをしない、いじめを見逃さない」と回答する生徒の割合が A　90%である。 B　85%以上90%未満である。 C　80%以上85%未満である。 D　80%未満である。	CまたはDの場合、生徒への指導を再検討する。	7月と12月に生徒を対象に調査を行う。
		5	職員全員が連携し、問題を抱える生徒の早期発見と支援及び問題行動の未然防止ができるようにする。	保健相談課 各学年	【成果指標】 教職員の連携を密にし、生徒一人ひとりの理解を深め、組織的に対応し早期支援ができる。	「職員間で気になる生徒の情報を共有し、関係機関と連携し、組織的に生徒の支援ができている」と回答する職員の割合が A　100%である。 B　90%以上100%未満である。 C　80%以上90%未満である。 D　80%未満である。	CまたはDの場合、職員間の連携および外部機関との連携のあり方を再検討する。	7月と12月に職員を対象に調査を行う。
4	教職員の業務改善及び働き方の見直しを推進し、持続可能で質の高い教育活動の実現を図る。	1	職員がワークライフバランスを意識して計画的かつ効率的に業務を遂行する。	教頭	【成果指標】 仕事の効率化や時間外勤務時間の削減を意識し、月80時間超えの職員を減らす。	時間外勤務時間の一ヶ月の平均が80時間未満の職員の割合が A　100%である。 B　90%以上100%未満である。 C　80%以上90%未満である。 D　80%未満である。	CまたはDの場合、取り組みを再検討する。	毎月の勤務時間調査の平均値で判断する。